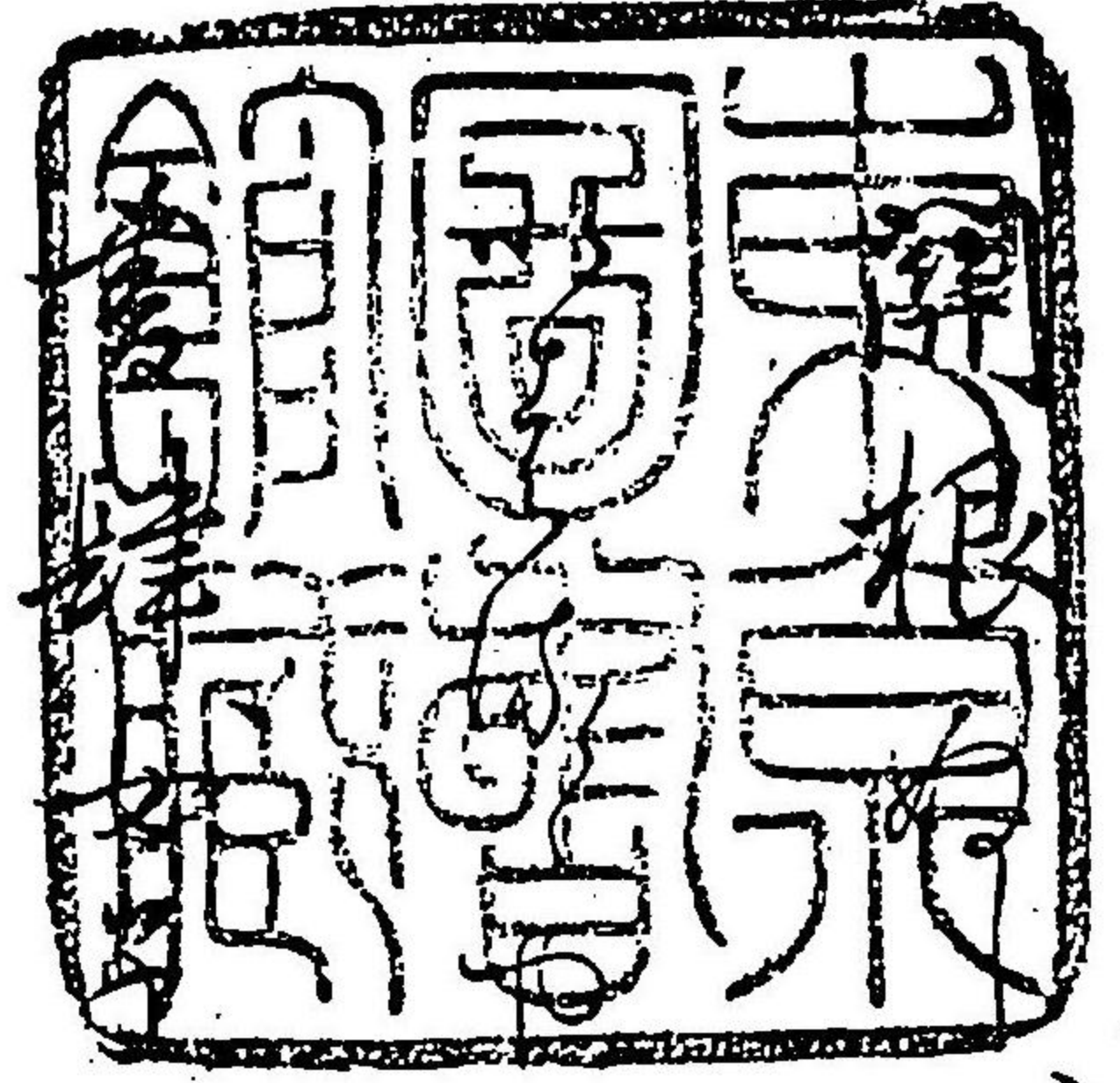




筆のゆきかひ序



一日の書を持来て  
うわらへんに来通ふ  
の消息文と板ふ彫

らむとし編輯を乞ふと度々

ふりかぬ道が事多からあつて

網引まら物よりに促さる切れ

が下は題を撰がそよそ来物と

いふんが事とそいふ可き延び

めおふふ下はむかひかづ



















母の女子から、高きとて、  
いふ、いふ、いふ、いふ、  
いふ、いふ、いふ、いふ、  
いふ、いふ、いふ、いふ、  
いふ、いふ、いふ、いふ、

明治二十六年六月二十日

下田 歌子 志

小野 穰 志

筆一 志 目次



筆—姑ゆき(か)と筆を目次

- 一年始末の文
- 古返事
- 寒中見舞の文
- 庭の花さかりに人を招く文
- 花を贈る文
- 初音句成祝の文
- 暑の来見舞の文
- 遊山—人成誘の文
- 人成誘の文
- 新年宴會の招く文
- 歌會を志す文
- 土産物を勧める文
- 人成旅行を—する文
- 土産を知らせる文
- 土産成の文
- 洋行する人を勧める文
- 土産成の文



- 一 延々〜逢ぬ人おぼし文
- 一 ありつねる文
- 一 納涼や友を招く文
- 一 卒業を祝ふ文
- 一 位階をうめりし〜人の文
- 一 友等進めらま〜人の文
- 一 人小買物を託する文
- 一 祝日に人成まぬる文
- 一 議負小傍聴を同合する文
- 一 娘の縁談を頼む文
- 一 養子世話を忠告する文
- 一 仲人を移す文
- 一 仲人〜禮をうける文
- 一 婚姻を祝ふ文
- 一 病室見舞ひ文
- 一 贈書を見舞ふ文
- 一 道具を借る文
- 一 衣服仕立文

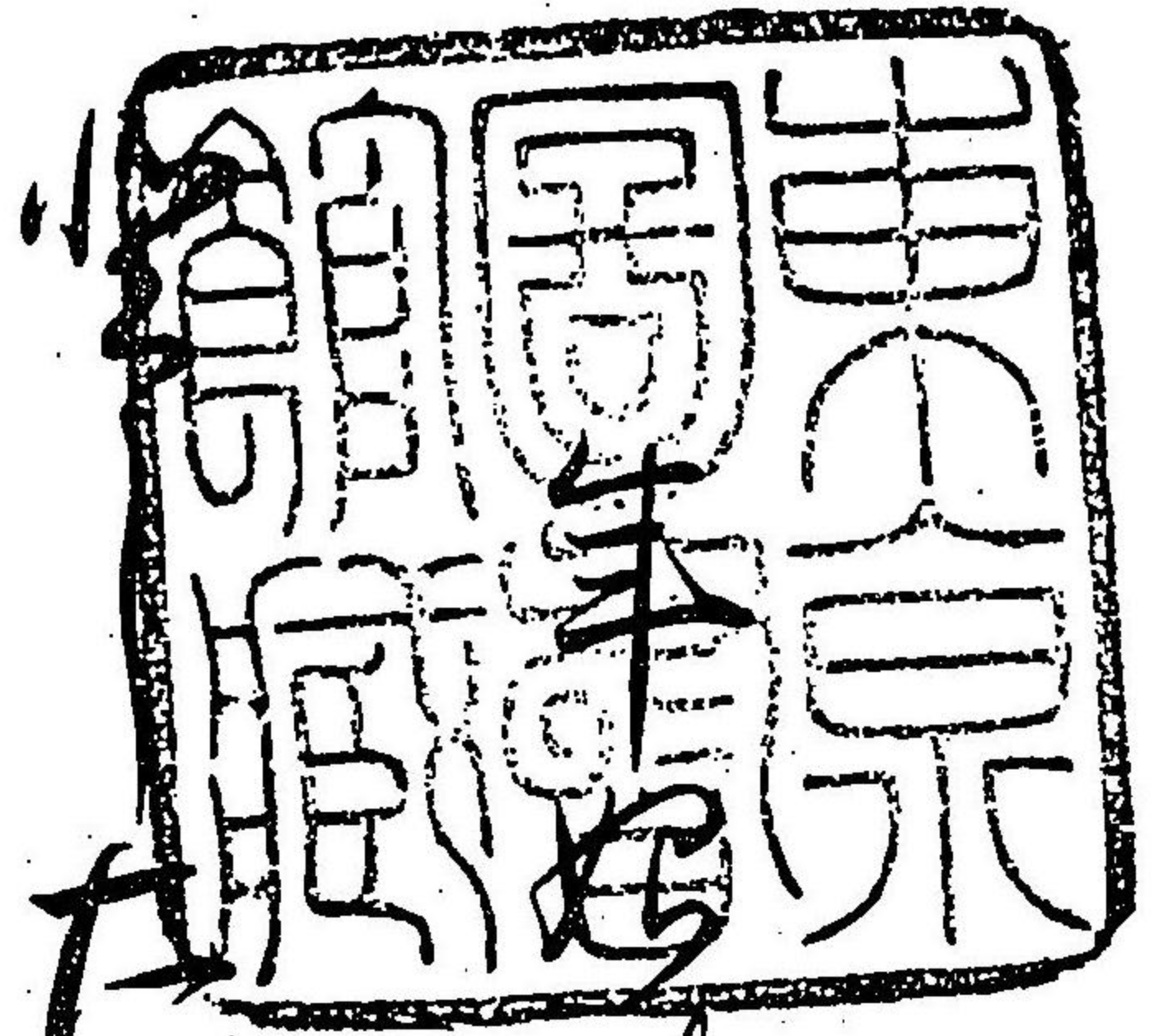
和文十冊入



- 一 道具を借る文
- 一 衣服仕立の文

筆はゆかひ

関根 正直 同編  
坂 正 同編



此文

たからるる金の

あつたかきおらるる

何の事かきくふか

人からいふこと

せいのものはたか



Handwritten cursive text, likely a signature or name.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.



Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.



1. The number of test cases

is given by the following

1. The number of test cases

is given by the following

1. The number of test cases

is given by the following

1. The number of test cases

is given by the following

1. The number of test cases



たのび次たすしおのし

お母さんお父さん

くまのしより師の先生は

友とちたあそびあそび

しあそびあそびあそび

あつはしあつはしあつはし

一月一日 孝子

母上様



右返事

思ひおこせしよし如く

いふはかぬ内うらなひ

あつた事しとておぼし

かひもしとておぼし

持風しとておぼし

あつた事しとておぼし

あつた事しとておぼし

あつた事しとておぼし



Handwritten cursive text, likely a signature or name, located in the upper right section of the page.

Handwritten cursive text, possibly a name or title, located in the middle right section of the page.

Handwritten cursive text, possibly a name or title, located in the middle right section of the page.

Handwritten cursive text, possibly a name or title, located in the middle right section of the page.

Handwritten cursive text, possibly a name or title, located in the middle right section of the page.

Handwritten cursive text, possibly a name or title, located in the middle right section of the page.

Handwritten cursive text, possibly a name or title, located in the middle right section of the page.

Handwritten cursive text, possibly a name or title, located in the middle right section of the page.

Handwritten cursive text, possibly a name or title, located in the middle right section of the page.







いふことかきかへし

はなはたしうたふ

かきかへしうたふ

かきかへしうたふ

かきかへしうたふ

かきかへしうたふ

かきかへしうたふ

かきかへしうたふ

かきかへしうたふ



かゝるはなれはあゝし四に

年とてはあまのふはな

いふはあまのふはな

海に作文はあまのふは

いふはあまのふは

いふはあまのふは

あまのふは

あまのふは

寒中見舞の文



心子の

寒中見舞の文

かきつたまに  
ももはるまはまの真  
成るもかすく朝夕のこ  
とや きたまにかんこひ  
をす ぬまのるら勢御  
親様あたまのすくは機



嫌よ〜心母〜社〜

也ま物心又法も力〜

法た法又法も力〜

心〜法法心法心〜

何〜法法心法心〜

心法〜法法心法心〜

心〜法法心法心〜

心〜法法心法心〜

心法〜法法心法心〜



心 孝の徳を日毎に

孝の徳を日毎に

孝の徳を日毎に

孝の徳を日毎に

孝の徳を日毎に

孝の徳を日毎に

孝の徳を日毎に

孝の徳を日毎に

孝の徳を日毎に



かゝるやふしうふくえを  
いふ處、古辭「さくらさくらし  
くもたひもたひのさくらさくら  
き中、たひもたひのさくらさくら  
かゝるやふしうふくえ

庭の花盛ふ人を招く文

花のいかにたふさくたふさく

いかにたふさくたふさく

花のいかにたふさくたふさく



花の心から...  
...  
...

花の心から...  
...  
...

花の心から...  
...  
...

花の心から...  
...  
...

花の心から...  
...  
...

花の心から...  
...  
...

花の心から...  
...  
...

花の心から...  
...  
...

花の心から...  
...  
...

花の心から...  
...  
...



起ふたのしちきりたのしと

桜の文はまのちかよふ

但し昔のあはれ様の

はお伴のしち梅子椰子

鈴葉子葉子梅子椰子

しち子なる哉とあはれ歌

今も心に付るしちとその日に

はあはれの様のは琴の一曲は

張るもしちあはれ







花葉の流文

ふ世の草の原の草の

何れも花の葉の

花の葉の葉の

花の葉の葉の

花の葉の葉の

花の葉の葉の

花の葉の葉の

花の葉の葉の



Handwritten text at the top of the page, possibly a header or title.

Handwritten text line, likely the first line of a paragraph.

Handwritten text line, continuing the paragraph.

Handwritten text line, continuing the paragraph.

Handwritten text line, continuing the paragraph.

Handwritten text line, continuing the paragraph.

Handwritten text line, continuing the paragraph.

Handwritten text line, continuing the paragraph.

Handwritten text line, continuing the paragraph.

Handwritten text line at the bottom of the page, possibly a signature or closing.



たそあつらはるまは

あまみち

名りたそあつら

あまのこころ

初節句哉祝ふ文

文吉郎様は初節句の為

武者人形志願ふに哉

わんわんおあつら

あまのこころ

あまのこころ

あまのこころ







芳志(年)名(年)我(年)尔(年)何(年)事(年)

斯(年)尔(年)尔(年)尔(年)尔(年)尔(年)

尔(年)尔(年)尔(年)尔(年)尔(年)

尔(年)尔(年)尔(年)尔(年)尔(年)

尔(年)尔(年)尔(年)尔(年)尔(年)

尔(年)尔(年)

暑氣見舞此文

尔(年)尔(年)尔(年)尔(年)尔(年)

尔(年)尔(年)尔(年)尔(年)尔(年)



暑業見舞文

可い俄に甘んじたい

帝から一様か一裁

いかに世からかか

了まるといふこと

中安にいふから

いかにいふから

昔からいふから

いかにいふから

いかにいふから



根は轉地あきけしゆふ  
やうに彩もゆる程あつち  
かきかゝるあ何とては舞  
り何とてあまのあはさて  
この西瓜昨日田舎をり  
おどろおどろせらあはるん  
舞の席は目  
いふあはか

遊山小人を誘ふ文



舞の座下け巨公

いふもふか

遊山人を誘ふ文

秋草のそよみ 笑掃の草

山里のきりぎりすのこゝろ

おのころの 頃厚のしほ

よー 昨日赫母の居れ色

かゝるは 花のたのしみ 遠

きつと 遠のたのしみ

紅のたのしみ 昔のたのしみ



明後日若ら休暇の幸に

午安の時のみき私も姉妹

三人そろそろ申するはあは

あはれおのひかま一柱の

ませられの性解るる事

たのしみおのほほおの

かよふおのほほおの

い、殊ふおのほほおの

御姉君は妹君も色はあは



ト上多シト云レバ...

了殊尔云云...

御姊君古妹夫...

女好付...

らた多...

下中...

る...

人の為...

由...

相...



けろのちのちのちのちのち

あふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふ



この日記は、いつか、

いつか、いつか、

いつか、いつか、

いつか、いつか、

いつか、いつか、

いつか、いつか、

いつか、いつか、

いつか、いつか、

いつか、いつか、

いつか、いつか、



かきまて tomorrow

~~~~~

新年宴會小招文

明後七日 例年の通新

年宴會相まの月一合

午後三時より 夕方七時出

~~~~~

~~~~~

歌會鼓志

~~~~~



〜〜〜〜〜

ふふか〜

歌會越志の文

又〜〜〜

ら〜〜〜

は〜〜〜

賀の歌會を〜

年〜〜〜

さ〜〜〜

秋祝のほ〜



た〜前〜車〜山〜技〜

尤〜技〜技〜山〜山〜

〜山〜山〜山〜山〜

知〜下〜山〜山〜山〜

の〜山〜山〜山〜

〜山〜山〜山〜山〜

山〜山〜山〜山〜

山〜山〜山〜山〜

山〜山〜山〜山〜

山〜山〜山〜山〜



おのゝとあつらひし

土産物をあつらふ文

おのゝとあつらひし

おのゝとあつらひし

おのゝとあつらひし

おのゝとあつらひし

おのゝとあつらひし

おのゝとあつらひし

おのゝとあつらひし

おのゝとあつらひし



古老人掾さむれさる

ふきりたるさるれ

かきくはか

人の縁のききする文

持せらちば久く古自り

いからけはさるるさる

あきからききさるる

さき松山舟子掾さる

いのかさるる遠國の古親類

二用事出せりさるる



おんからあつたあつたあつたあつた

さう 松山舟子様へ

このあつた遠國の法親類

に用事出来らるゝか月

廿二日のあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

らあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

月あつたあつたあつたあつた



す〜の〜

〜

出産を知らず文

一筆〜

奥方様昨夜夜安産ま

と玉の〜

音毛殊外〜

〜

に聊也障なくわ〜

〜



いそいでせうがはせよ

に聊成障なくわらせ

あしはる—所敷

いそいでせうがはせよ

いそいでせうがはせよ

いそいでせうがはせよ

いそいでせうがはせよ

いそいでせうがはせよ

いそいでせうがはせよ

いそいでせうがはせよ



丁に御書が書かれたる

法に於ては、此の御書に

さしつけられたる御書に

あるは、此の御書に

始免の老人極の御書に

御書に、此の御書に

法に於ては、此の御書に

の安ら御書に、此の御書に

し、此の御書に、此の御書に

の御書に、此の御書に



古國より来るものなり

の安らけり

しよとるは清初産の女

のわのこい花もかきかき

よる清中産の女なり

のうとるは清中産の女

のうとるは清中産の女

のうとるは清中産の女

のうとるは清中産の女

のうとるは清中産の女



洋行甚る人出たる文

從官位極高なり伊國特命

全權公使なり店業轉ある事

一に心は心なり

長年此の事なり

此の事なり

海國律一に此の事なり

此の事なり

此の事なり

此の事なり



... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..



Handwritten cursive text, likely a signature or name.

Handwritten cursive text, likely a signature or name.

Handwritten cursive text, likely a signature or name.

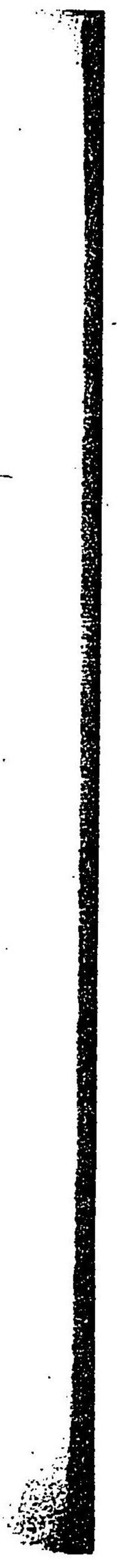
Handwritten cursive text, likely a signature or name.

Handwritten cursive text, likely a signature or name.

Handwritten cursive text, likely a signature or name.

Handwritten cursive text, likely a signature or name.

Handwritten cursive text, likely a signature or name.



Handwritten cursive text, likely a signature or name.

Handwritten cursive text, likely a signature or name.



佛令樣樣心可也

可也心由

---

可也心由

可也心由

可也心由

可也心由

可也心由

可也心由

可也心由

可也心由



古くは心持好まざるに

志願し、心持好まざるに

は、心持好まざるに

お、心持好まざるに

心持好まざるに

心持好まざるに

心持好まざるに

心持好まざるに

心持好まざるに

心持好まざるに



花の香〜 花の香〜 花の香

花の香〜 花の香

久〜 久〜 久〜

帝の御〜 帝の御〜 帝の御

筆〜 筆〜 筆〜

一筆〜 一筆〜 一筆〜

古の昔〜 古の昔〜 古の昔

色〜 色〜 色〜

花の香〜 花の香〜 花の香

花の香〜 花の香〜 花の香



Handwritten text in cursive script, likely a name or title.

Handwritten text in cursive script, likely a name or title.

Handwritten text in cursive script, likely a name or title.

Handwritten text in cursive script, likely a name or title.

Handwritten text in cursive script, likely a name or title.

Handwritten text in cursive script, likely a name or title.

Handwritten text in cursive script, likely a name or title.

Handwritten text in cursive script, likely a name or title.

Handwritten text in cursive script, likely a name or title.

Handwritten text in cursive script, likely a name or title.



→ 新田のちのち

子部 ← 下

→ 今

→ 新田

→ 新田

→ 新田

→ 新田

→ 新田

→ 新田

→ 新田



たゞしは時中——よみりて

ひきいれおかしき心／＼にぞを志

たゞおまじの情にのほろびたるを

あふさかぬか——Litho 5.

いゝいゝいゝいゝ

あつたおゝ家文

越の鳥古南枝お果来ゝんが

れ馬の風お新ゝんゝの誠

おは家お羅ゝんゝの

あゝおゝのあゝ——及耶小



越の鳥と南枝の果とを  
代馬の風が新々との誠

おはなす雛の恋のまの  
あおのつばき——故郷の  
の国の花から——稲穂を  
落果たせ、こころをその後  
をけ、こころを毎々おぼろ  
ひきまるとおぼろげに  
御ら配おぼろげに  
はなす雛の恋のまの



よ 竹程元野 鞠子上京

に 彩里の 小春あり

かき 持て 一あはさるる

一 松の 苗地に 花は

よ ちか ちか ちか ちか

に 柳の 花の 花の 花の

よ ちか ちか ちか ちか

よ ちか ちか ちか ちか

よ ちか ちか ちか ちか

よ ちか ちか ちか ちか



North Star Bank

North Star Bank

North Star Bank

North Star Bank

North Star Bank

North Star Bank

North Star Bank

North Star Bank

North Star Bank

納涼山友在也



昨日今日の事は何もなし

ふふふふの事は何もなし

ふふふふの事は何もなし

ふふふふの事は何もなし

ふふふふの事は何もなし

ふふふふの事は何もなし

ふふふふの事は何もなし

ふふふふの事は何もなし

ふふふふの事は何もなし

ふふふふの事は何もなし



たまたまの書物から  
昔の事から

その庭から大橋の橋  
たまたまの書物から  
真

書物からたまたまの書物から  
たまたまの書物から

たまたまの書物から  
たまたまの書物から

たまたまの書物から  
たまたまの書物から



三〇九

平業致

大平業致

大平業致

大平業致

大平業致

大平業致

大平業致

大平業致

大平業致



来一之也の父を保護

人との心は淋徳女学を禁

Keam 徳心 一 心 程 心

心 心 心 心 心 心 心 心

心 心 心 心 心 心 心 心

心 心 心 心 心 心 心 心

心 心 心 心 心 心 心 心

心 心 心 心 心 心 心 心

心 心 心 心 心 心 心 心

心 心 心 心 心 心 心 心







東京の文化の発展

賢人君子の活躍

心算算術の発展

教育の目的と方法

教育の歴史

教育の理論

教育の実際

教育の未来

教育の現状

教育の発展











ふりかへるはつとて

はつとてはつとてはつとて

はつとてはつとてはつとて

はつとてはつとてはつとて

はつとてはつとてはつとて

はつとてはつとてはつとて

はつとてはつとてはつとて

はつとてはつとてはつとて

はつとてはつとてはつとて

はつとてはつとてはつとて



イ . . . . . カ

富業進めたり

佛業轉あはる由新

り何ぞも遠名譽言

事定嬉々存上

かあるまゝ遠隔の

寺より云ふ何ん

ら有とて言ふか

く結念をいふ文

あけよかき



人小買物を託する文

秋迄もおもむきいらぬ哉

今更なほ〜と懸案

にちい〜と申すは〜

幾重もはたしてた〜

そん〜とあるは〜

先日御ふと書は〜

持たら地も〜ハ綿類殊

の外安價は趣のふ〜

はあわ私方差由多







別紙記し、此世に於

て、上と下を区別し、

此世に於て、

此世に於て、

此世に於て、

此世に於て、

此世に於て、

此世に於て、

此世に於て、

.....



たふさふさの世に傳ふるの依頼

かよふ世に傳ふるの依頼

かよふ世に傳ふるの依頼

祝日お入を招く文

かよふ世に傳ふるの依頼

おまじらへる〜明後日の天

長前節へはつと頼むと此飛

子鶴子お代子の方二十名

何れもせらる〜私方より



宴會或は天子皇陸

下の位舞楽の樂を祈

りまゐらせ舞樂と云

琴三弦の唱歌洋

箏などの合奏も同

かましくは同日に定めて

古来小あや河舟は

事多し小舟あやせら

通くはしはあやせら



事—多シル母ある事から始

通る事には、母の心から

出た事、母の心から

事、母の心から

権の事、母の心から

事、母の心から

事、母の心から

午後三時、母の心から

事、母の心から



にんものちやよきかゝり

議員も傍聴を同命する文

満ちての機嫌もあは

らぬと判日に出院あり

は—國名記の事とあは

は—の事とあは

たくなよとあは

教の事とあは

よき事とあは

會場に行き



乾の考への名を元より

よき事なり——たかきくしと謙

會傍臨相をききりしはとも

これと申す紹介人にもはる

吾國へききりし義は毒なり

此の世にけしきりしはるは数

とて文察——よき事なりと

知しむる世にけしきりしはる

傍聴のありきりしはる



昔より先きおぼつかの

たしなむとて明後日あは

らぬとておぼつかの

満、は切符の用のお

らぬとておぼつかの

娘の縁談をいひ

しなむとておぼつかの

くちなむとておぼつかの

子とておぼつかの

いひなむとておぼつかの















自 館 之 月 刊 之 報

自 報 之 刊 月 之 報

自 報 之 刊 月 之 報

自 報 之 刊 月 之 報

自 報 之 刊 月 之 報

自 報 之 刊 月 之 報

自 報 之 刊 月 之 報

自 報 之 刊 月 之 報



自 報 之 刊 月 之 報



お城の御用度御用度御用度

中へ親の御用度御用度

おのり御用度御用度御用度

御用度御用度御用度御用度

御用度御用度御用度御用度

相應に御用度御用度御用度

御用度御用度御用度御用度

御用度御用度御用度御用度

御用度御用度御用度御用度





居るに可成相とある人  
 決し辭は歩歴其あるに  
 中をわたりてあつて  
 昔に相讓りたる分家  
 なるものありしに  
 其人物なるに  
 なるにありしに

仲人を頼む文



とていふはなほさかきかき

仲人を頼む文

略儀さうじつ物事さうじつ

とまゝをせよいふこと

め事終つて中言事女の

月諱して麓山お家の娘

とていふはなほさかき

氏さあちかゝ指さかき

下媒人といふ一表向の味



媒介の妻の夫極古の夫婦

にのむる中たぐさるる

にのむる子もみおるる

古の多し古の——の隣

感のむるにのむる

とむるにのむる

にのむるにのむる

にのむるにのむる

にのむるにのむる



ふかたのこころをいかにいかに

ふかたのこころをいかにいかに

ふかたのこころ

仲入の礼状をいかにいかに

ふかたのこころをいかにいかに

ふかたのこころをいかにいかに

ふかたのこころをいかにいかに

相原のこころをいかにいかに

古橋のこころをいかにいかに



折下されはるはるの  
そ尾ふら萬年一おの  
い音ふらふらも  
下安ら付らふら  
袴地並ニ目録甚難少ニ  
ふらふら  
の響留のちと和  
希ふらふら

婚姻をいふ文



希ふはかたじけなく

婚姻をいふ文

御妹まはを君とていふ村

子爵のちかきつゝの御堂

あふのちかきつゝの御堂

あふのちかきつゝの御堂

若くは儀才徳とていふ村

君の学藝のあつたは

はまのちかきつゝの御堂



あゝ世もいそぎあはれな

に 侍もあはれな

に 侍もあはれな

知れぬ女もも侍儀に

申さるる御目もいそぎあはれ

に 侍もあはれな

に 侍もあはれな

に 侍もあはれな

に 侍もあはれな



Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name, located at the top of the page.

Handwritten text in cursive script, located below the signature.

Handwritten text in cursive script, located below the previous line.

Handwritten text in cursive script, located below the previous line.

Handwritten text in cursive script, located below the previous line.

Handwritten text in cursive script, located below the previous line.

Handwritten text in cursive script, located below the previous line.

Handwritten text in cursive script, located below the previous line.

Handwritten text in cursive script, located at the bottom of the page.



for the first time

the first time

the first time

the first time

the first time

the first time

the first time

the first time

---

the first time



阿ふか

ホムコウキョウキョウキョウ

シラキケルル

ホムコウキョウキョウ

ホムコウキョウキョウ

ホム

病業見舞文

時東グールド氏方の茶話會り

お茶嬢のめくらすし出立會り







は 法 金 快 心 法 書 心 事 あり

心 事 あり 法 書 心 事 あり

心 事 あり 法 書 心 事 あり

心 事 あり 法 書 心 事 あり

心 事 あり 法 書 心 事 あり

心 事 あり 法 書 心 事 あり

心 事 あり 法 書 心 事 あり

心 事 あり 法 書 心 事 あり

心 事 あり 法 書 心 事 あり



湿田町若谷信吾君の遺稿

小笠原村の遺稿

精舎村の遺稿

小笠原村の遺稿

此度迄の遺稿

小笠原村の遺稿

小笠原村の遺稿

小笠原村の遺稿

小笠原村の遺稿



この地は地勢を考へて

もかたのちをきけり

かたの地も清引にあり

はるかに存一の週間

にきくものもきくもの

ひきかへての地もきくもの

ひきかへての地もきくもの

か

道具をかる文

一筆中上公明後十八日私方に



同縣人懇親會相用きり交に

社會に二十人きりあつて人々を

立ち酒樓さへもなほ催し

を禁——會負順次は自宅を料

理をいへば約束のし——にて

すさうちあつて、私分當番は

り、就き、膳梳の乾私方に

二十人あつてあり所持し

は、さうなれども、餘りある